

## 患者の皆様へ

2022年9月1日  
婦人科

現在、婦人科では、「進行卵巣がんにおける Bevacizumab 投与の有効性と安全性」の研究を行っています。今後の卵巣がん治療の向上に役立てることを目的に、当院で2008～2020年に治療・管理を受けた卵巣がんの患者さんの診療情報などを利用して頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

### 1. 研究課題名 「進行卵巣がんにおける Bevacizumab 投与の有効性と安全性」

### 2. 研究の意義・目的

進行卵巣がんは死亡率が高く、見つかったときにはすでに腹腔内に播種をしていることが多い疾患です。卵巣がん患者さんの寿命を規定する最も重要なことは、腹腔内の播種をできる限り摘出し、手術終了時の残存腫瘍をなし（完全切除）にすることであり、その後に抗がん薬投与を行うことです。卵巣がんは、直腸などの消化管に播種することが多いため、手術では、がんの播種した部位の消化管を切除した後に吻合することが多いです。また、播種の程度が著明で手術が難しい場合は、抗がん薬治療を先行させてから手術を行うことも多いので、その場合は消化管に癌がある状態で抗がん薬治療を行います。卵巣がん治療で用いる抗がん薬のなかで、血管新生抑制効果のある Bevacizumab は、日本では2013年に保険承認されてこれまで使われてきましたが、消化管切除吻合後や消化管に癌の播種がある状態での使用は消化管穿孔のリスクがあり、使用に躊躇する場合があります。2019年からは、卵巣がん治療に PARP 阻害薬が保険承認されて、Bevacizumab を使うか、PARP 阻害薬を使うか判断に迷う場合もでてきました。そこで、千葉大学附属病院婦人

科でこれまで治療してきた卵巣がん患者さんにおける Bevacizumab がどれだけ寿命を延ばしたか、合併症はどうであったかを振り返って検討し、今後の治療に活かす研究を行います。

### 3. 研究の方法

千葉大学附属病院婦人科で 2008 年から 2020 年までに治療がおこなわれた進行卵巣がん患者さんを対象にします。患者さんの年齢、病気の広がり、がんの種類、おこなった手術術式、Bevacizumab 投与の有無、手術合併症の有無、生存の期間などをカルテから調査し、まとめます。研究内容は、学会・学術誌に公表予定です。

### 4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、収集したデータから氏名・ID 番号を削除し、研究用 ID を付与して特定の個人が容易に識別できないように加工して取り扱います。研究用 ID と氏名を一致させるための対応表を作成し、千葉大学大学院医学研究院生殖医学教室の鍵のかかる部屋で、個人情報が外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。保管します。

### 5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省・経済産業省による「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。

**研究実施機関** : **千葉大学大学院医学研究院生殖医学**

**千葉大学医学部附属病院婦人科**

**本件のお問合せ先** : **千葉大学大学院医学研究院生殖医学**

**医師 錦見 恭子**

**043 (226) 2121 内線5314**